

第81回定例研究会 10月19日(金) 於:県評会議室

大場みゆき氏「自治体非正規・公共関係労働者の実態」

自治体直雇用非正規労働者

全国の自治体非正規雇用労働者数は、2008年の総務省調査(週20時間以上、6ヶ月以上勤務)では、約50万人となっていますが、調査要件に該当しない人を含めれば、実際には70万人とも言われています。74%が女性であり、職種では、一般事務職、保育士、技能労務職、給食調理員、看護師などがあります。非正規職員の割合は全体の3~5割ですが、職種によっては正規職員と逆転している場合もあります。

公務公共関係労働者

自治体の外郭団体や指定管理者、自治体出資補助金の団体などで働いている労働者です。社会福祉協議会、福祉施設、介護施設、障害児施設、公園施設管理などが、そうです。

自治体非正規・公共関係労働者の実態

年収は、200万円に満たない実態です。また専門職として働いています。昇給、一時金、退職金の支給がないところが圧倒的に多く、保育士、消費生活相談員、給食、看護師、医療補助などです。休暇制度も、正規職員に対し、私傷病、介護、忌引き、育児等の制度について格差があります。大部分が有期雇用のため、雇い止めの不安が常にあります。

静岡県の状況

静岡県内では、およそ12,000人の自治体直雇用非正規労働者がいます(県職員除く)。静岡自治労連では、自治体非正規・公共関係労働者として働く臨時保育士や病院・介護施設などで、組織化が行なわれています。団体交渉では、有期雇用で働いている場合は、雇用を守っていくことを大前提とし、さまざまな工夫や配慮をしながら、当局との団体交渉に臨んでいます。正規職員と非正規職員の意識のギャップは、まだまだ大きなものがあります。



第49回浜松支所所員会議:

10月25日(木):西部地区労連

中安俊文氏

「家計簿から見た労働者の生活」

中安氏の夫人が、長年続けている家計簿の内容を紹介して頂きました。とりあえず、今回は直近の、夫婦二人の年金生活で、2007年~2011年のデータについて見てみました。

食費については、食料が種類別に細かく分類されており、興味深いものでした。米・魚・肉類は減少傾向にありました。乳卵・豆・加工食品・菓子類が増加傾向にありました。

食費以外では、自動車関係費・旅行などの教養娯楽費の支出が多い感じでした。

また非消費支出では、国民健康保険料が大きな割合を占めていました。

賃金明細書も結婚以来、ずっと保存してあるということで、今後、子育て時代や大学生の教育費等がかかった時代の家計簿が整理されると、静岡県の最低生計費試算結果と比較して、面白い内容が期待されます。

【今後の日程】

第50回浜松支所所員会議

11月22日(木)18:30~ 於:西部地区労連
秋のセミナー

【就労支援関連】

11月24日(土)13:30~ 於:県評会議室

第82回定例研究会

12月21日(金)18:30~ 於:県評会議室

第52回理事会

12月26日(水)18:30~ 於:県評会議室

*連絡先: ☎422-8062 静岡市駿河区稲川2-2-1 コハラサウスサイドビル7F

静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

メール roudouadv@wave.wbs.ne.jp ホームページ <http://www.geocities.jp/shizuokarouken/>